

## ■ 2010年(1月～6月) 活動報告 ■

### ユニセフ募金 & ユニセフグッズ頒布

6月14日(月) 浄土真宗本願寺派各教化団体合同総会会場(武雄市文化会館)

- ◆ 浄土真宗本願寺派各教化団体合同総会会場においてユニセフグッズの頒布と募金活動を行いました。寺院関係の皆様ユニセフへのご理解とご協力を呼びかけました。
- ◆ 皆様からご協力いただいた募金は7,930円、グッズへのご協力は24,180円でした。ご協力いただいた皆様に心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。



### 募金贈呈式

6月1日(火) 佐賀県支部事務所

- ◆ 第3回「庭の駅オープンガーデン」実行委員会(馬渡康禎代表)では、4月29日から5月2日まで県内18カ所でオープンガーデンを開催されました。お庭を見に来られた方から入場料をいただく代わりに、青い募金箱を設置してユニセフ募金にご協力いただきました。
- ◆ 本日は代表の馬渡様が27,271円の募金を事務所までお届けくださいました。ご協力くださった皆さま、大変ありがとうございました。

### 募金贈呈式

5月26日(水) 三養基郡みやき町中原小学校

- ◆ 中原小学校6年の運営委員の皆さんは、ユニセフ募金活動に取り組みました。5月12日・13日・14日の3日間、朝の時間に全校のお友だちにユニセフ募金への協力を呼びかけました。その結果、12,331円の募金が集まりました。本日の放送朝会で、運営委員の皆さんから「みんなで集めたお金を世界中で困っている人々を助けるために使っていただきたいと思います。」と手渡しがありました。学級のお友だちは放送室から送られてくる校内テレビで贈呈式の様子を見ました。
- ◆ 募金贈呈の後、新鮮な野菜などに恵まれなため栄養が足りずにビタミンA欠乏症になる子どもがたくさんいることをお話し、そのための対策としてユニセフは子どもたちに高単位ビタミンAのカプセルを年2回飲ませていることをお伝えしました。中原小学校のみなさま、ありがとうございました。

## ユニセフ募金 & ユニセフグッズ頒布

5月23日(日) 鹿島市七浦海浜スポーツ公園  
第26回鹿島ガタリンピック「～言葉だけでは、伝わらない～」

- ◆ 広大な有明海の干潟をグラウンドにした鹿島ガタリンピック。今年は雨でしたが、117人の外国選手を含む約1200人の選手の参加がありました。2万2千人の観客は、潟スキーや綱引き自転車競技などで全身泥まみれになって奮闘する選手達に熱い声援を送り、雨の中でのガタリンピックを楽しみました。



- ◆ 雨の降る中、西部中学校ユニセフボランティアの皆さんは、ユニセフの青い募金箱を持って会場をまわり、募金協力を呼びかけました。観客の皆さまからご協力いただいた募金は、1US \$、1,000ウォン、23,342円でした。さすが、国際的になったガタリンピックです。ご支援ご協力いただいた全ての皆さまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



カードはいかがですか？

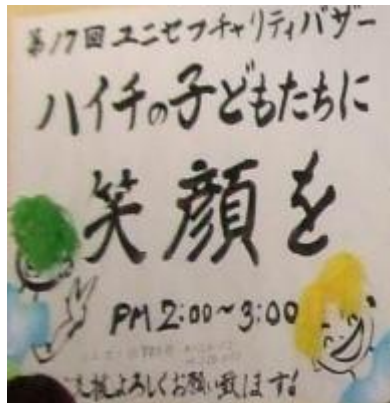


西部中学校ユニセフボランティアの皆さん：雨にも負けず募金活動！



### 【募金活動をして】

- ◆ 雨だったけど募金活動は楽しかった。「こっちへおいで」と言って募金をしてくれる人がいたので感動した。優しい人がいるのだなあと嬉しかった。



## 第17回ユニセフチャリティバザー「ハイチの子どもたちに笑顔を送る」

5月16日 佐賀玉屋にて

- ◆ 5月16日、佐賀玉屋南館1階で、「ハイチの子どもたちに笑顔を送る」というテーマで、第17回ユニセフチャリティバザーがひらかれました。

- ◆ 数日前までは、雨予報でしたが、幸い、うって変わって素晴らしい晴天の中、たくさんの方にご協力いただきました。



- ◆ ハイチの子どもたちのために、目標を上回る118465円の売上げと1561円の募金、合計120026円が集まりました。みなさまのご協力、感謝いたします。ありがとうございました。

## ユニセフグッズの頒布&ユニセフ活動の紹介

5月16日(日) 唐津市虹ノ松原広場

第41回『青年の日』/第16回 チャリティーフェスティバル ～愛を集めよう 愛を届けよう～

- ◆海風が松林を吹き抜ける爽やかな虹ノ松原広場で、青年の日実行委員会とボランティア団体クローバーによる「第16回チャリティーフェスティバル ～愛を集めよう 愛を届けよう～」が開催されました。会場では1,500人の市民の皆さんがフリーマーケットや舞台イベントを楽しまれました。
- ◆NPO/NGO活動紹介で、マラリア予防のための蚊帳(オリセツ)の紹介をしました。ユニセフは、マラリアの効果的かつ経済的に実施可能な予防策としてマラリアを媒介する蚊から子どもたちを守る殺虫剤処理済みの蚊帳の普及に取り組んでいることをお話しました。
- ◆「青年の日チャリティーフェスティバル」は、立正佼成会青年部の皆さんがユニセフ支援と地域社会福祉協議会等への賛助を目的に、市民の皆さんの参加のもと世界の平和を祈り行動される日です。

※唐ワンくんは、唐津城築城400年記念のキャラクターです。



Hさんご家族、唐ワンくん、  
飛び入りのボランティア  
のご協力ありがとうございました。

## 第107回有田陶器市 ユニセフ募金活動&グッズ頒布

5月2日(日) 今右衛門古陶磁美術館前にて(有田町赤絵町)

- ◆GW5連休の2日目、絶好のお天気に恵まれ朝から多くのお客様(18万人の人出)で賑わいました。

陶器市メインストリートの中ほどにある今右衛門古陶磁美術館前で、「ハイチ大地震緊急・復興支援募金活動」とユニセフグッズの頒布を行いました。

- ◆佐賀大学・西九州大学の学生さん他、総勢18名のボランティアの皆様は早朝より会場に来てくださり、メインストリートを歩かれる多くのお客様に募金協力や、グッズへのご協力を呼びかけました。



- ◆今回は佐賀大学のマスコット・キャラクター「カッチーくん」の応援もあり、多くの子どもたちが「カッチーくん」の募金箱に自分のお財布から募金をして握手をしたり記念撮影をしたりと大人気でした。
- ◆有田陶器市にお越しになった多くの皆様のご協力をいただき、155,325円もの「ハイチ大地震緊急・復興支援募金」と、19,860円のグッズのご協力をいただきました。ありがとうございました。



## ユニセフパネル展

4月25日(日) 第25回花みずき茶会にて(佐賀市金立山いこいの広場)

- ◆満開の花みずきが新緑に映えるなか、「第25回花みずき茶会～平和への祈りをこめて～」が開催されました。主宰の岩橋宗厚先生はユニセフや国際ソロプチミストを通して、困難な状況下にある子どもたちへの支援を続けておられます。
- ◆好天に恵まれ、たくさんのお客様がお手前を楽しまれていました。待合にはパネル「ユニセフの願い」を展示し、お客様にユニセフの活動の様子をご覧いただきました。



## イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」贈呈式

4月11日(日) ジャスコ佐賀大和店(佐賀市大和町)



- ◆イオン九州株式会社では、地域への社会貢献活動の一環として「いい日、いい街、イオン・デとして毎月11日に「幸せの黄色いレシートキャンペーン」を実施しておられます。この日は、お客様がレジ精算時に受け取られた黄色いレシートを応援したい団体の投函BOXへ入れてくださると、お買い上げ金額合計の1%が地域ボランティア団体などにイオンギフトカードとして贈られます。
- ◆ジャスコ佐賀大和店橋本店長様より「多くのお客様にイエローレシートキャンペーンの趣旨をご理解いただき、平均して3割以上、多いときは4割のお客様が交換にご協力いただいています。2010年度は更に多くの皆様にご協力いただけるよう考えています。」とのご挨拶がありました。

- ◆日本ユニセフ協会佐賀県支部には2009年度分として47,400円分のギフトカードの贈呈がありました。ユニセフのBOXにご協力いただいたお客様のお気持ちを全額ユニセフ募金とさせていただきます。皆様、ありがとうございました

## JA佐賀県女性組織協議会 愛の募金贈呈式

3月18日(木) JA佐賀会館

- ◆JA佐賀県女性組織協議会(藤木智恵子会長 部員2万人)では、昭和54年の国際児童年を契機に子どもたちのための募金活動に取り組みられ、平成元年に「愛の募金」と名称を変え今日に至っています。活動は今年で31年になり、毎年ユニセフと佐賀県内の児童福祉施設に、部員の皆様の善意を届けておられます。今年も「JA女性部の心です。世界の子どもたちの幸せのために役立ててください。」と117,143円もの浄財を、JA佐賀県女性組織協議会藤木会長様より、日本ユニセフ協会佐賀県支部角田研三常務理事に贈呈されました。



- ◆贈呈式の後、角田常務理事より、1990年代の子どもの状況が皆様のおかげで現在どのように改善されているかを、5歳未満時の年間死亡数や三種混合ワクチンの接種率、飲料水の改善などを例に挙げてお話しお礼を申し上げます。ありがとうございました。

## 佐賀善意銀行 ハイチ地震緊急・復興支援募金贈呈式

3月17日(水) 佐賀新聞社

- ◆佐賀善意銀行では、1月12日夕方(現地時間)に発生したハイチ大地震で壊滅的な被害を受けた人々を支援するため1月16日から「ハイチ大地震救援金」の受け付けを開始されました。多くの県民の皆様から554,969円の義援金が寄せられ佐賀善意銀行水田運営委員長様から手渡されました。
- ◆また、日本ユニセフ協会佐賀県支部にハイチ支援として指定預託された40,753円の浄財も同時に手渡されました。
- ◆たくさんの皆様のハイチの人々への温かいご支援に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



### 募金贈呈式

3月15日(月) 柳川市立豊原小学校

- ◆柳川市立豊原小学校(児童数196人:古賀敬一校長)4・5・6年の児童会計画委員の皆さんは「ユニセフ募金をしよう」を議題に取り上げました。
- ◆計画委員の皆さんは3月8日から11日までの4日間、毎朝登校時に児童昇降口でユニセフの募金箱を持ってお友だちに協力を呼びかけ、10,819円のユニセフ募金が集まりました。「みんなで頑張って集まった募金です。世界の子どもたちに届けてください。」と佐賀県支部に託されました。

#### 【募金活動をして】

- ◆みんなが協力してくれたので嬉しかったです。
- ◆「家の人が募金に持って行きなさいと言った。」と、千円札を持ってきてくれた人がいたのでびっくりしました。

## ハイチ地震緊急・復興支援募金贈呈式

3月11日(木) 小城市立三日月小学校

- ◆6年生から仕事を引き継いだ5年生ボランティア委員の皆さんは、日本ユニセフ協会からの「ハイチ地震緊急・復興支援募金」協力の呼びかけに応じて、校内募金活動に取り組みました。2月24日から3月2日までの間、校内放送などで募金協力をお願いをしました。
- ◆実質5日間の活動で19,158円のハイチ地震緊急・復興支援募金が集まり、ボランティア委員会の皆さんから「ハイチ地震で困っている人たちへ届けてください。」と託されました。
- ◆贈呈の後、ハイチの現状を話し募金がどのような形で生かされるかを例をあげて説明しました。ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

#### 【募金活動をして】

- ◆初めて募金活動をしたけど、みんなから協力してもらったので大変うれしかったです。



## 募金贈呈式

3月10日(水) 三養基郡上峰町立上峰小学校

- ◆上峰小学校6年生の皆さんは先生の呼びかけに応じて45人で昨年12月20日の上峰サティでのユニセフ・ハンド・イン・ハンドに参加しました。
- ◆ハンド・イン・ハンドで体験したことをきっかけとして2月の総合学習でユニセフについて勉強を深め、ユニセフ新聞やポスター・チラシなどにまとめたり校内放送で発表したりと発信し、更には校内募金活動へと発展させました。給食の時間に募金箱を持って各クラスをまわり協力を呼びかけ、お礼に手作りのぬり絵や折り紙をあげました。卒業式を間近にした本日、23,624円のユニセフ募金の手渡しがありました。ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。



### 【募金活動をして】

- ◆私達はユニセフの募金活動をやっているいろんなことを知りました。募金活動の大変さやあきらめない心など大切なことを知りました。これからも世界中の困っている人たちのために協力しようと思いました。
- ◆協力してもらって嬉しかったです。こんなに集まったのも皆さんのおかげです。中学生になってもこのような活動を続けたいです。

## ハイチ地震緊急・復興支援募金贈呈式

3月10日(水) 佐賀新聞社



- ◆コープさが生活協同組合(組合員数55,540人:半田幸子会長)では、ハイチ大地震被災地域でのユニセフの活動を支援するため2月8日から2月21日までハイチ大地震緊急募金に取り組みました。
- ◆コープの注文カードでご協力いただいた募金、店舗の募金箱にご協力いただいた募金、合わせて611,789円ものハイチ地震緊急・復興支援募金をコープさが半田会長から「生協の機能を生かして募金を行っています。“募金は必ずユニセフに行く”という信頼感があって皆様から温かいご協力をいただき大きなお金になりました。この浄財がハイチの子どもたちの為に役立てられますように。」と、日本ユニセフ協会佐賀県支部中尾会長へ手渡されました。
- ◆中尾会長からは「自然災害の二次被害にさらされている最も弱い立場にある子どもたちを守るために使わせていただきます。ありがとうございました。」とお礼の言葉がありました。たくさんの皆様のご支援に心から感謝申し上げます。

## ユニセフ・パネル展「気候変動と子どもたち」

～アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使のブルキナファソ視察報告～

3月3日(水)～3月9日 iスクエア さが市民活動プラザ



- ◆アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使は、2009年4月ブルキナファソを訪問しました。砂漠化による農業への影響、森林の崩壊、干ばつによる食糧不足、… 最大の被害者となっているブルキナファソの子どもたちの姿を写真で報告しました。
- ◆隣のブースで勉強中の高校生が熱心に見てくださったり、「ニュースで知りました。」と遠方から来くださった方もいらっしゃいました。

### 【アンケートより】



- ◆まずブルキナファソと言う国自体を自分の不勉強な部分もありますが知りませんでした。初めてテレビのニュースで耳にしました。そういう面からもこのパネル展の意義は大きいと思うし、パネル自体もすごく考えさせられました。
- ◆地球に子どもとして生まれたという事実は同じなのに、生まれた地域によってこんなにも違ってくるのか、というのを感じました。そして、その原因が私たちの生活態度がもたらす環境破壊であるということを感じ知らされるものでした。
- ◆シアバタークリームがフランスで売られている写真があった。もしかしたら私もブルキナファソのシアバターで作られたクリームを使っているかもしれないと思うと、遠い全く知らなかったブルキナファソが急に身近に感じられた。そして、ブルキナファソのひび割れた大地とそこで水を探している子どもたちのことがとても身近に感じられた。

- ◆シアバタークリームがフランスで売られている写真があった。もしかしたら私もブルキナファソのシアバターで作られたクリームを使っているかもしれないと思うと、遠い全く知らなかったブルキナファソが急に身近に感じられた。そして、ブルキナファソのひび割れた大地とそこで水を探している子どもたちのことがとても身近に感じられた。

## ユニセフおはなし会

～ わたしが見たブルキナファソ ～

3月7日(日) iスクエア佐賀市民活動プラザ(パネル展会場)

- ◆2008年にブルキナファソへ行った大島清美さんが、ブルキナファソで体験したこと・ブルキナベの子どもたちや女性たちのこと・水の問題や未来の子どもたちのために私たちができることなどについてお話してくださいました。



### 【アンケートより】

- ◆ブルキナファソの働き者の女性たち、食べ物のことなど興味深かった。ブルキナファソの平均寿命は48歳で女性は30代になると「長老」と呼ばれると聞いて驚いた。昔、日本は「人生50年…」と言っていたけどそれよりも寿命が短いなんて。栄養や医療が十分ではないのだろうと思った。
- ◆「厳しい環境の中でも厳しさを受け止めて少しのものでも分かち合い助け合いながら暮らしている」ということを聞いて、自分のことに置き換えて考えました。
- ◆「未来の子どもたちのために私たちができること」の話のなかで「動けば変わる」という言葉が心に残りました。「私にも動ける何か」を見つけて動き始めようと思いました。まずは、帰りにはエレベーターに乗らないで歩いて階段を降りることから…かな？

## 募金贈呈式

2月16日(火) 福岡県大川市立三又小学校



◆三又小学校児童代表委員会のみなさんは、12月の議題に「ユニセフ募金をしよう」ということを取り上げました。各クラスにペットボトルで作った募金箱を置き12月と1月に協力を呼びかけました。その結果、13,161円の募金が集まりました。本日は代表委員会の皆さんで相談した結果、「大きな地震で家族や住む家をなくしたハイチの子どもたちを助けてください。」とハイチ地震緊急・復興支援募金として贈呈されました。

◆募金贈呈の後、6年生の社会科の教科書でユニセフの支援物資の例として紹介されている経口補水塩やマラリア予防用の蚊帳、ビタミンAなどの現物を見ながら、みなさんからの支援がどのような形で子どもたちに届くのかをお話しました。

### 児童代表委員の話

- ◆みんながたくさん協力してくれたので嬉しかったです。みんなの協力に感謝したいです。
- ◆私たちのしたことが、世界の子どもたちのためになるので、してよかったと思います。

## ハイチ支援募金活動&グッズ頒布

2月11日(木・祝) 「関谷静司ギター演奏会」会場(佐賀市エスプラッツホール)にて

- ◆関谷静司ギター演奏会会場出入り口にて、来場者にハイチ大地震緊急募金をお願いしました。
- ◆コンサートの合間にも関谷先生が「ハイチの子どもたちのためにユニセフ募金へのご協力をお願いします」と呼びかけてくださいました。
- ◆大勢の方々から寄せられた浄財は18,973円にもなりました。関谷先生、ご協力いただいた皆様ありがとうございました。



## ユニセフ出前授業

この世界に生きる子どもたち ～わたしたちにできること～

2月5日(金)福岡県大木町立大溝小学校6年

- ◆大溝小学校6年生のみなさんは、総合的な学習で「わたしたちにできるボランティア」について学んでいます。「食料分配」を通して、食料の消費が国や地域に大きく偏りがあることに気がきました。また、ビデオを見て世界には様々な困難な状況のなかで生きている子どもたちがいて、子どもたちを守るためにユニセフがどのような活動をしているかを知りました。
- ◆この学習で気付いたことを自分とのつながりにおいて考え課題を作り「わたしたちにはどんなことができるか」と、学習を発展させられる予定です。



## ユニセフ出前授業

～世界に目を向けて～

2月3日(水) 上峰町立上峰小学校6年



- ◆上峰小学校6年生のみなさんは、総合的な学習と社会科の関連で、国際社会における日本の役割について学習し、世界の人々と共に生きていくためにはどうすればよいかについて学習しています。「食料・エネルギー分配」を通して食料やエネルギーの消費が国や地域によって大きく偏りがあることに気付きました。また、ユニセフのビデオを見て世界には様々な困難な状況のなかで生きている子どもたちがいることを知りました。
- ◆この学習のあと、自分にできる「はじめの一步」としてどう行動に移すかを話し合い、卒業前の体験的学習に取組まれる予定です。

## ハイチ大地震義援金贈呈式

2月2日(火) 佐賀県支部事務所

- ◆弘学館中学校1年の生徒さんがTVでハイチ大地震の惨状を見て「何とかして助けてあげたい。」と思い、生徒会に「ハイチ支援募金」を提案しました。それを受けて生徒会で話し合いをし、生徒会役員全員で1月28日、29日の2日間にわたって校内で募金活動をしました。その結果、110,588円もの募金が集まりました。
- ◆生徒の皆さんや先生方の温かな気持ちでいっぱい募金を「ハイチの子どもたちの為に使ってください。」と事務所までお届けいただきました。弘学館中学校高等学校の皆さま、ありがとうございました。



## ハイチ大地震義援金贈呈式

1月25日(月) 佐賀県支部事務所

- ◆トヨタ紡織九州株式会社職層会の皆さまがハイチ大地震支援のために集められた義援金を事務所までお届けくださいました。ご協力くださった皆さま、大変ありがとうございました。

## ハイチ大地震緊急募金

1月24日(日) ゆめタウン佐賀(佐賀市兵庫町)

- ◆ハイチ大地震緊急支援募金活動をゆめタウン佐賀店で行いました。通りがかった中学生の飛び入りでのボランティア参加に力を得て、お客様に「ハイチの子どもたちのためにご協力をお願いします。」と呼びかけました。
- ◆小さな子どもさんからご年配の方まで、多くの方々から計61,784円もの浄財を寄せていただきました。このお金は日本ユニセフ協会を通じてニューヨークの本部に送られ、ハイチの子どもたちのために使わせていただきます。募金にご協力いただいた皆さま、遠方より駆けつけてボランティア協力してくださった皆さま、飛び入りで手伝ってくださった城南中学校サッカー部の皆さま、そして快く会場をご提供くださったゆめタウン佐賀店さま、たくさんの皆さまに心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。



## イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン

1月11日(月) ジャスコ佐賀大和店(佐賀市大和町)

- ◆毎月11日のイオン・デーには、地域のボランティア団体などの名前と活動内容を書いた投函BOXがお店に置かれます。この日は、お客さまがレジ精算時に受け取られた黄色いレシートを応援したい団体の投函BOXへ入れていただくと、お買い上げ金額合計の1%が地域ボランティア団体などに寄贈されます。



- ◆佐賀県支部も投函BOXを用意していただき、イオン・デーのこの日に、キャンペーンの輪を広げるためのイベントに参加させていただきました。ユニセフへのご協力を呼びかけますと多くのお客様がレシートを入れてくださり、投函BOXは「幸せの黄色いレシート」でいっぱいになりました。皆様ありがとうございました。